

日本作業療法士協会が目指すロードマップとクォータ制の紹介

一般社団法人日本作業療法士協会（以下、本会）では、「誰もが主役 多様な協会へ」というスローガンのもと、会員の視点に立った会員のための協会活動を目指す、新しい取り組みを始めています。この連載では、本会の目指す方向やそのための事業について紹介し、会員の誰もが参画しやすい協会活動のあり方について提案していきます。

多様化する

日本作業療法士協会の会員

本会の会員数は2022年に64,488名となり、会員構成はますます多様化してきています。

多様性には、年齢・性別・役割・経験等さまざまな要素がありますが、年齢をみても2022年時点で21～30歳が32.4%、31～40歳が36.5%、41～50歳が22.8%、51～60歳が6.9%、61歳以上が1.2%と、さまざまな年齢層の作業療法士が本会に所属していることがわかります（図1）。年齢によっては、昇進・転職・退職等さまざまなキャリアの変化や、教育係や管理職等さまざまな職場内役割を担っていることが推測されます。また、職場以外の役割としても、20代～30代の子育て世代や、40代以上の介護世代等、ライフステージによってさまざまな家庭内役割を担っている世代が多くなることがわかります。

性別をみると、男女比は1993年で男性31.4%、女性68.6%であったのに対し、2022年では男性38.9%、女性61.1%と男女比も徐々に変化していることがわかります（図2）。

さらに、本邦における作業療法の領域や職域も、近年は多様に変化しています。『作業療法白書2021』によると、病院等の医療関連施設で働く作業療法士が48.6%と依然として多いものの、介護関連施設（13.3%）や障害関連施設（2.5%）、作業療法士学校養成施設（2.5%）に加え、児童発達支援センターや放課後等デイサービス、リハビリテーション関連企業や一般企業等で働く会員も増えつつあります。

以上のように、近年の本会会員は、30歳代前後を中心

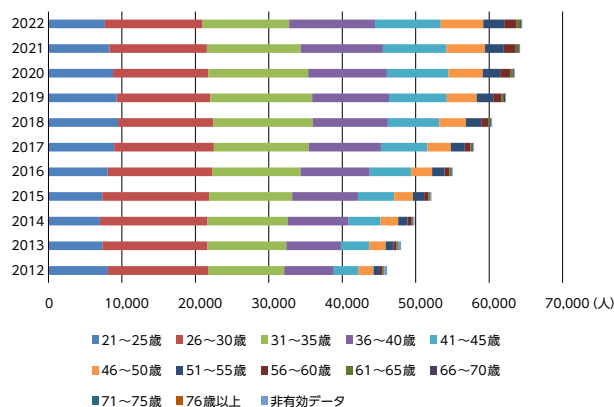


図1 年齢別会員数の推移 (2012～2022年)

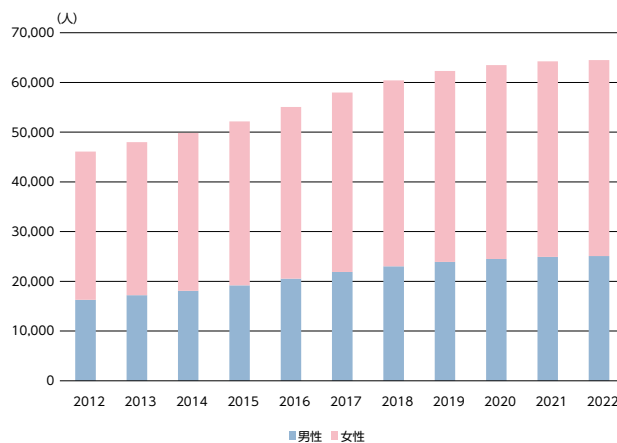


図2 男女別会員数の推移 (2012～2022年)

とした、さまざまなワーク・ライフイベントや従来にはなかった職域で活躍する、多彩な背景を有する会員構成へと変化してきていることがうかがえます。

日本作業療法士協会が目指す未来 ～ロードマップ～

このような多様な会員が安心して作業療法士として働けるように支援するのが本会の役割であり、今こそ改めて会員の視点に立った活動を見直す必要があると考えます。

そこで、本会では「誰もが主役 多様な協会へ」というスローガンのもと、「会員の視点に立った会員のための協

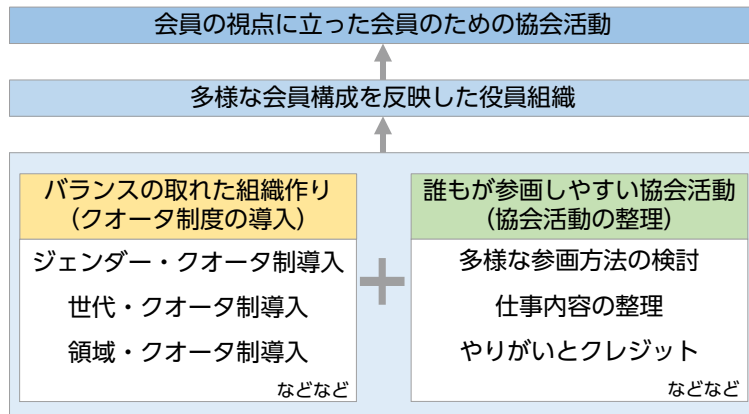


図3 多様な会員構成を反映した役員組織の実現に向けたロードマップ

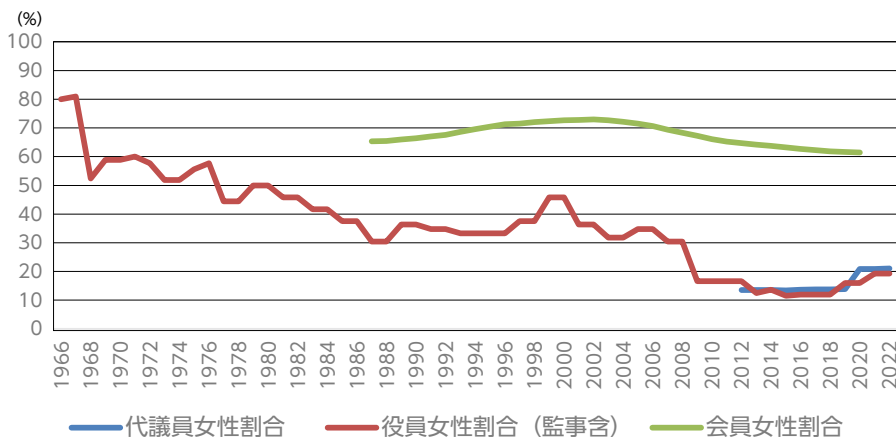


図4 役員および代議員の女性割合の推移 (1966～2022年)

会活動」をビジョンに掲げ、多様な会員構成を反映した役員組織の実現に向けたロードマップを作成しました (図3)。そのためには、以下の活動が重要となります。

1. バランスの取れた組織づくり (クォータ制の導入)
2. 誰もが参画しやすい協会活動 (協会活動の整理)

バランスの取れた組織づくり

その重要性

会員の代表として活動を担うのが役員や代議員です。一般的に、意思決定の場において少数派が無視できない影響を及ぼすようになる分岐点を「クリティカル・マス」と言い、30%がその基準的な数値であるとされています。つま

り、特定の属性が30%以上を占めることが、多様性に配慮した組織として必要な条件であると言えます。

しかし、性別をとってみても本会の役員構成は、本会設立当時の1966年は女性役員が約8割であったのに対し、1980年以降の女性役員は5割以下となり、2022年には女性2割、男性8割と逆転する状態となりました。また、代議員の構成も、代議員制が導入された2012年当初から女性代議員が2割以下という状況が続いています (図4)。このように特定の属性が大多数を占めている現状は、価値観に偏りが生じたり、マイノリティの意見が反映されず、会員一人ひとりにとって満足できる多様な協会活動につながりにくくなる可能性があります。

日本作業療法士協会の役員選挙における クォータ制の導入

そこで、バランスの取れた組織づくりの第一歩として、本会では役員選挙における「クォータ制」の導入を進めていくこととなりました。

クォータ (quota) とは、ラテン語に由来する英語で「割り当て、分担、取り分」等を意味します。クォータ制 (quota system) は、人種や性別、宗教等を基準に、一定の比率で人数を割り当てる制度のことであり、政治におけるクォータ制の導入目的は「国民構成を反映した政治」を行うためとされています。

本会においても、現在の多様な会員の構成、価値観、意見を反映するために、クォータ制度の導入が必要と考えます。そして、まずは役員男女比のバランスを整え、多角的な視点を取り入れるためのジェンダー・クォータ制を進めていく運びとなりました。なお、役員選挙におけるクォー

タ制の詳細については、今号の p.17 をご参照ください。

会員視点に立った 協会活動の実現を目指して

本会は、さまざまな背景をもつ会員の皆様によって構成されています。このような多様な会員構成を反映するための役員選挙におけるクォータ制の導入が、会員の視点に立った会員のための協会活動の実現につながり、より良い協会活動を会員や社会に届けられるのではないかと考えています。

この連載では今後も、クォータ制の導入に向けた情報や、協会活動への参画の方法、実際に参画されている会員の経験等も伺いながら、会員一人ひとりに合った参画のあり方について考えていきたいと思います。皆様こそが協会活動の「主役」であることを感じていただき、ぜひ一緒に参画していただけたら幸いです。

クォータ制周知啓発 ロゴマーク決定！

2024年3月11日～3月31日にクォータ制の周知啓発用ロゴマークを一般公募したところ、21作品もの応募がありました。クォータ制の主旨や「誰もが主役多様な協会へ」というスローガンを表現しているか、著作権の確認等を踏まえて、右記のロゴマークが理事会にて承認されました。ご応募いただきました皆様、ありがとうございました。



●作成者：熊谷有紗さん（会員番号：93058）

●作成者からのメッセージ

「年齢・性別・働く場所や領域もさまざまな作業療法士たちを色も形もそれぞれ異なるキャラクターで、そして輪になり、ともに協働していく姿を表しました。」